

HONG KONG LINER



欧慧心 (ウィンサム・アウ) 首席代表 (写真・前列左から5人目) と来賓および香港から参加したスタートアップ企業の代表者たち

「SusHi Tech Tokyo 2024」に香港パビリオン出展

香港企業 20 社が参加。香港のダイナミックなビジネス環境とスタートアップ・エコシステムを紹介

香港経済貿易代表部と香港投資推進局（インベスト香港）は、5月15日と16日に東京ビッグサイトで開催された世界的なスタートアップイベント「SusHi Tech Tokyo 2024 グローバルスタートアッププログラム」に香港パビリオンを設置しました。

「ダイナミック香港」をテーマとした香港パビリオンでは、香港のスタートアップ企業 20 社を一堂に集め、各社のビジネス、サービス、製品を紹介。また、香港のダイナミックなビジネス環境、活気に満ちた多様なスタートアップ・エコシステム、イノベーションとテクノロジー (I&T) 分野での積極的な取り組みを、日本と世界のビジネスコミュニティに向けて発信しました。

香港経済貿易代表部の欧慧心 (ウィンサム・アウ) 首席代表はオープニングセレモニーで挨拶し、香港のスタートアップ・エコシステムを代表し、香港パビリオンのテーマである「ダイナミック香港」を紹介するアンバサダーである参加企業に歓迎の意を表しました。

「国の第14次5カ年計画と広東・香港・マカオ大湾区構想がもたらすチャンス、そして2022年12月に香港政府が発表した『香港イノベーション&テクノロジー発展詳細計画』の下での多くの関係者の努力のおかげで、香港は研究開発能力、世界クラスのインフラ、信頼できる法制度や知的財産の枠組みといった優位性を活用し、世界でも主要なI&Tハブの1つへと発展しつつあります」と欧首席代表は語っています。

P3の関連記事もご覧ください。



多くの来訪者を迎えた香港パビリオン

香港国際空港、2023年も貨物取扱量で世界一

総取扱量で首位を維持。年内に予定する滑走路3本体制の完成により、貨物取扱容量が大幅アップ

国際空港評議会（ACI）が4月に発表した最新データによると、香港国際空港は2023年空港別貨物取扱量ランキングにおいて、総貨物取扱量で再び首位に輝きました。

昨年、香港国際空港で取り扱った貨物の量は430万トンに上り、同空港が国際・国内貨物を合わせた総取扱量ベースで世界一となるのは、2010年以降13回目です。

これを受けて、香港空港管理局の蘇沢光（ジャック・ソー）会長（役職は当時）は「この快挙は香港国際空港の回復力、比類のない効率性、世界レベルの貨物サービスをはっきりと示すものだ。航空貨物は香港の物流産業および全般的な経済発展の重要な原動力であり、香港空港管理局では世界の貨物ハブとしての香港国際空港の競争力をさらに強化すべく、今後とも航空貨物関連のパートナーたちと手を携えて、たゆまぬ努力を続けていく」と述べました。

香港国際空港では長期的な需要に対応できる容量を確保

するため、滑走路3本体制に向けた拡張工事を進めています。同体制は2024年中の完成を目指しており、3本の滑走路すべてが稼動することで、年間1,000万トンの貨物を取り扱うことができるようになります。



「世界金融センター指数」 香港は引き続き4位

英国のZ/Yenと深圳の中国総合開発研究院が3月に発表した「世界金融センター指数（GFCI）」最新版で、香港は世界第4位を維持しました。

毎年3月と9月に報告書が発表される同指数ですが、今回は世界121の金融センターが評価され、香港はニューヨーク、ロンドン、シンガポールに次ぐ順位となりました。

コメ兵ホールディングス、香港でアジア地域本部の設置を計画

ブランド品リユース大手のコメ兵ホールディングスは2013年に初の海外拠点として香港に進出し、2019年に買収した「ブランドオフ」は香港全土で続々と新店舗をオープンしています。香港の消費者の間で責任ある持続可能な買い物の選択肢を求める声が高まっていることを受け、同社は今般、現地でのプレゼンス拡大と、香港拠点をアジア地域本部とする計画を発表しました。「自由貿易港であり、低税率、アジアの中心に位置する戦略的立地など香港特有の優位性は、地域の他の市場を開拓するのに適しています。この度、新設する地域統括本部は、弊社のアジアとその先にあるグローバル市場への事業拡大に向けた戦略的取り組みにおけるマイルストーンであり、香港の優位性を最大限に活用することで、更なる成長を遂げたいと思います」と、株式会社コメ兵ホールディングス 取締役執行役員 山内祐也氏は語ります。



株式会社コメ兵ホールディングス 取締役執行役員 山内祐也氏

SusHi Techで香港の強みを世界にアピール

パネルディスカッションと参加企業によるピッチで、スタートアップ拠点としての香港をPR

5月15日、16日の両日に開催された「SusHi Tech Tokyo 2024グローバルスタートアッププログラム」では、香港パビリオンの設置に加えて、香港のスタートアップ・エコシステムについての理解を促進するパネルディスカッションや、参加各社によるピッチプレゼンテーションも実施されました。

5月15日は香港パビリオンを会場に、香港のダイナミックなスタートアップ・エコシステムをテーマとしたパネルディスカッションと、来日した香港のスタートアップ企業によるピッチプレゼンテーションが行われました。

翌16日には、香港の活気あふれるビジネス環境とイノベーションとテクノロジーへの積極的なアプローチを広く知ってもらおうと、「Hong Kong: A Vibrant Tech Hub for Startups and Corporates」と題したランチョン・パネルディスカッションが開催されています。

インベスト香港の呂縉勇高級副総裁（スタートアップ担当）は、香港の活発なスタートアップ・エコシステムについて語る中で、同局の調査の結果によると、香港のスタートアップ

企業は繁栄を続けており、その数は2023年に前年比272社増の4,257社と過去最多を記録したことを指摘。また、これらの企業は金融テクノロジー、eコマース、サプライチェーンマネジメント、ロジスティクステクノロジーなど、さまざまな事業分野に及んでいると付け加えました。

他にも、香港サイエンス&テクノロジーパーク社（HKSTP）事業開発シニアマネージャーの謝正謙（アイザック・ツェー）氏がパネリストとして登壇し、HKSTPのスタートアップ企業向けプログラムや支援について説明しました。同じくパネリストとして、香港スタートアップ企業3社の代表者は香港での起業にまつわる各社の経験について語り、アリババ創業者基金CCOの呂紹勇（ティ・ルイ）氏は、アリババ創業者基金がいかんして香港のスタートアップ・エコシステムに持続可能な影響を作り出し、スタートアップ企業に力を与えるとともに、香港および広東・香港・マカオ大湾区のイノベーションとテクノロジーを支援しているかについて紹介しています。



5月15日に行われた、インベスト香港、香港貿易發展局、香港サイエンス&テクノロジーパーク社の代表者によるパネルディスカッション「Hong Kong's Dynamic Startup Ecosystem」



2日目の5月16日には、ランチョン・パネルディスカッションを開催



香港パビリオンで自社製品を紹介する香港のスタートアップ企業

I&T企業向け香港視察ミッションを実施

日本からの業界特化型ビジネスミッション第2弾。バイオテクノロジー関連企業の15名が参加

インベスト香港と香港経済貿易代表部は5月15日～18日の日程で、香港へのイノベーション&テクノロジー（バイオテクノロジー）ミッションを共同で開催しました。日本のバイオテクノロジー企業10社、ベンチャーキャピタル2社、スタートアップインキュベーター1社から計15名が参加し、香港のイノベーション&テクノロジー（I&T）市場や投資環境について理解を深めました。

今回の視察団派遣は、昨年4月の外食・食品企業向け香港視察ミッションの成功を受けて、業界に特化した日本からのビジネスミッション第2弾として実施されたものです。

視察団は、5月16日と17日に香港貿易発展局の主催で行われた国際会議「アジア・グローバルヘルス・サミット」に参加。同イベントの一環として開催された商談会では、投資家や投資先、ビジネスパートナーとなり得る企業とのビジネスマッチング面談に臨みました。



「アジア・グローバルヘルス・サミット」の商談会に参加



香港サイエンス&テクノロジーパーク社を訪問

インベスト香港の蔣学礼（ジミー・チャン）局長代理は、16日に開かれたウェルカムディナーで「科学研究、政策支援、知的財産権保護、金融市場、人材などの面で強みを持つ香港は、生命健康科学の発展に理想的な場所となっている。インベスト香港では今後も、より多くの中国本土および外国のI&T企業が香港に拠点を設けるのを積極的に支援していきたいと考えている」と述べています。

翌17日に視察団は香港サイエンス&テクノロジーパーク社（HKSTP）を訪問し、香港のビジネス環境と商機について説明を受けるとともに、HKSTPに入居する日本企業のラボやその他の施設を見学しました。一行はその後、インベスト香港主催のネットワーキングディナーに参加しています。



5月16日のウェルカムディナー

街じゅうにアートがあふれた3月の香港

「芸術3月2024」で多彩なイベントを開催。チームラボの作品など、屋外アート展示も充実

「芸術3月2024」の期間中、香港ではメガサイズの芸術文化イベントが多数開催され、そのラインナップは美術展や映画イベントから文化サミットまで、多岐にわたりました。

とりわけ、ビクトリアハーバーの両岸では国際的なアートイベントが目白押しで、「アート・バーゼル香港」（3月26日～30日）や「アートセントラル」（3月27日～31日）といった毎年恒例のアートフェアに加えて、日本発の国際アート集団・チームラボの新作インスタレーションを含む大規模な屋外アートプロジェクト「Art@Harbour 2024」（3月25日～6月8日）も開催され、多くの来場者を集めました。

「芸術3月（Art March）」を、香港特別行政区政府の主催、助成あるいは協力で行われる各種の関連イベントを一括して訴求するブランドとして打ち出したのは、今回が初めてのことでした。これには、香港の活気ある文化シーンをさらに生き生きと彩りあふれるものにするとともに、すべての人に毎年3月、香港でアートに浸って思い出に残る体験をしてほしいとの願いが込められています。

Art@Harbour 2024

ビクトリアハーバーの両岸を舞台に展開された「Art@Harbour 2024」では、屋外の広いスペースをふんだんに使ったアートイベントを開催。地元と世界のアーティストによる芸術、科学、テクノロジーを統合したインスタレーションやプロジェクト、エクシジョンマッピングが、海沿いの一帯を文化と芸術のための壮大なステージへと変貌させました。



添馬公園と中西区海濱プロムナード（セントラル区間）で展示された「チームラボ：コンティニユアス」は期間中、130万人以上が観覧



香港文化センター広場でのデジタルアート展示「ゴッホとの航海」



添馬公園と中西区海濱プロムナードには「サイエンス・イン・アート」の作品も



尖沙咀ハーバーフロントの「Chromaflux」では、内外のアーティストによるデジタル映像作品を展示

アート・バーゼル香港

アジア最大級の現代アートフェア「アート・バーゼル香港」が3月26日から30日まで（26、27日は招待制）開催され、世界中から7万5,000人を超える来場者を迎えました。

アジアをはじめ世界各地の一流ギャラリーが出展したこのフェアは、コンテンポラリーアートと充実した対話プログラム、そして大規模インスタレーション作品との出会いを通して、香港の多様性と芸術的視点を映し出すものとなりました。



欧慧心首席代表が 日本各地を訪問

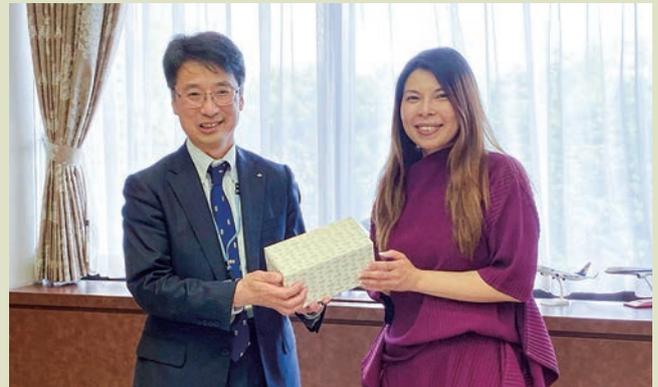
欧慧心（ウィンサム・アウ）首席代表は、3月に北海道札幌市、福岡県北九州市、沖縄県那覇市と鳥取県米子市を、5月には宮城県仙台市と新潟県新潟市を訪問しました。欧首席代表は、北海道日本香港協会と香港貿易発展局が共同で開催した「香港昼食講演会2024 in 北海道」、また沖縄日本香港協会と香港貿易発展局の共催で行われた春節セミナーとレセプションでスピーチしたほか、訪問した各地の自治体や経済界の幹部と意見交換を行いました。



札幌商工会議所副会頭を務める道路工業社長の中田隆博氏（写真・右から2人目）を訪問



北海道電力会長で北海道経済連合会の会長を務める藤井裕氏と



伊藤哲也 宮城県副知事と

法的観点から見た香港の優位性を東京で紹介

香港弁護士会との共催で昼食会を開催。国際事業展開のパートナーに香港を選ぶべき理由を解説

香港経済貿易代表部と香港弁護士会（弁護士会）は、グローバルビジネスパートナーとしての香港の利点や、国際ビジネスにおける香港の法制度と法律サービスの戦略的役割を知ってもらおうと、4月26日に東京でネットワーキング昼食会を共同で開催しました。

欧慧心（ウィンサム・アウ）首席代表は「法的な観点から見た香港におけるグローバル事業の開発」をテーマとしたこの昼食会で、コモンローに基づく香港の法制度は、その透明性、堅固性、信頼性で国際的に認められており、このことは安定的で豊かなビジネス環境を維持する上で極めて重要だと指摘。「成文法を明確かつ時代に合ったものに保つ政府の努力に加え、香港の法制度は刻々と変化するビジネス環境のあらゆる課題に対応し、適応することができます。それゆえ香港は、世界の企業が進出先として選ぶ場所であり続けているのです」と語りました。



ネットワーキング昼食会の様子



香港弁護士会の代表者に加え、日本のビジネスリーダーや法曹関係者が出席

「アジア国際ユースサッカーIN鳥取2024」

2018年11月以来の開催が実現。3回目となる大会で中国香港代表U-16チームが初優勝

3月22日から24日まで、鳥取県米子市で「アジア国際ユースサッカーIN鳥取2024」が開催されました。16歳以下の選手を対象とした同大会では、中国香港代表U-16、ガイナレ鳥取U-16、鳥取県選抜U-16の3チームによる総当たりのリーグ戦が行われ、中国香港代表チームが見事初優勝を飾りました。

この大会は、アジア国際ユースサッカーIN鳥取実行委員会と一般財団法人鳥取県サッカー協会の主催で実施されたもので、香港経済貿易代表部も協賛しました。



3月23日に行われた中国香港代表と鳥取県選抜の大会第2試合に駆けつけた歐慧心（ウィンサム・アウ）首席代表（写真・右から3人目）

横浜ドラゴンボートレースで香港のチームが躍動

大会最終レース「香港カップ」を制したのは、香港からの参加チーム。PRブースも設けて交流を促進

6月2日、横浜・山下公園前面の海上で開催された「香港カップ」ドラゴンボートレースで、昨年に引き続き香港から参加した中国香港龍舟總會が他の27チームを破って優勝。同レースに協賛する香港経済貿易代表部の謝智浩（レオ・ツェー）次席代表から、トロフィーを授与されました。



香港経済貿易代表部の謝智浩（レオ・ツェー）次席代表（写真・右端）と「香港カップ」優勝チームの中国香港龍舟總會

1994年から続く横浜ドラゴンボートレースには今年も約130に上るチームが出場し、6月1日と2日の2日間にわたり熱い戦いが繰り広げられました。「香港カップ」は大会の最終レースとして行われ、イベントのフィナーレを盛り上げました。

香港経済貿易代表部では、香港と日本の文化交流や相互理解を促進しようと、今年も会場にPRブースを設置。レースの観客や公園を訪れた人たちにクイズなどを通して香港の紹介を行い、ぜひ実際に現地を訪れて街の活気を体感してほしいと呼びかけました。



香港経済貿易代表部のブースで香港をPR

「香港パフォーマンス・アーツ・エキスポ」10月開催

域内外の芸術機関やアート関係者の交流促進を目的として、「香港パフォーマンス・アーツ・エキスポ2024」が10月14日から18日まで香港で開催されます。会期中には、一連のエキスポプログラム、インターナショナル・ショーケース、ピッチセッション、フォーラム、リーダーシップ講演会、アーティストによる共有セッション、展示、ネットワーキング活動などが予定されています。

詳細はこちらをご覧ください。 <https://www.hkpax.org.hk/>

SPOTLIGHT HONG KONG

ドラマチックなプレーに沸いた香港セブンズ

世界的な知名度を誇る7人制ラグビーの国際大会「香港セブンズ」が、4月5日から7日まで香港スタジアムで開催され、香港内外から約10万人のファンが集結。3日間にわたって素晴らしいプレーを楽しみ、お祭り気分で盛り上がりました。今回のトーナメントでは、最後まで激しい戦いを繰り広げた強豪国ニュージーランドが、男女ともに優勝カップを手に入れています。



香港經濟貿易代表部 (中華人民共和國 香港特別行政区政府 駐東京經濟貿易代表部)

〒102-0075 東京都千代田区三番町 30 番 1 号 香港經濟貿易代表部ビル
Tel : 03-3556-8980 Fax : 03-3556-8970 (代表部)
Tel : 03-3556-8961 Fax : 03-3556-8960 (企業・人材誘致専門室 兼 投資推進室)
E-mail : tokyo_enquiry@hketoty.gov.hk

 www.facebook.com/hketo.tokyo/
 www.instagram.com/hketo.tokyo/
 www.x.com/hketotokyo

香港特別行政区政府
ポータルサイト www.gov.hk

政府広報局提供の
無料ニュースサービス www.news.gov.hk

ブランド香港
Facebookページ www.facebook.com/brandhk.isd

香港經濟貿易代表部の
ホームページです!

www.hketoty.gov.hk

